

## 新潟県租税教育推進協議会長賞 佳作

### 税金の使い道

新潟県立長岡高等学校

二年 伊藤 陽菜子

私たちは普段生きていく上で当たり前前に税金を納めている。子供でも支払う消費税から、労働者の義務である所得税まで、様々な種類の税金がある。これらの税金はどのように使われているのだろうか。

まず、よく知られているところでは、公共施設やサービスの提供である。ゴミ処理場や交番など、私たちの生活になくてはならない施設が税金によって運営されている。また、社会保障費として、年金や医療、福祉に関する費用が多く使われている。超高齢化社会を迎えた日本では、このような費用がこれからますます大きなウエイトを占めるだろう。その他にも公務員の給与や学校教育など、私たちが納める税金によって社会は支えられているのである。

つまり裏を返せば、もし税金が無くなったら高齢者は定年を過ぎても働き続けなければならないし、莫大な教育費や医療費がかかるために子供を産むのを断念する家庭も

増え、今にも増して高齢化社会が深刻化するだろう。また、交番やゴミ処理などの運営がされないということは、日本の治安が悪化してしまうことが容易に想像できる。

しかし、私たち日本国民には、消費税減税などを求める人々が多くいる。もちろん、それは当然だと思う。品物を買うには安いに越したことはないからだ。

ところが、減税したところで社会がより生きやすいものになるかというと、広い目で見れば決してそうではないだろう。それは先に述べたように、様々な社会保障が、消費税をはじめとする税金から賄われるからである。

ただ、本当にこのままの税金の使い道で国民が納得するのだろうか。国の一般会計歳出を見ると、私は想像より防衛に関する費用の割合が大きいことに驚いた。自衛隊という職業がないと困る人がいるのは重々承知しているが、戦争放棄を憲法に明記している日本が、これほどまでに防衛という名の戦争に関わる事業を支援して良いのだろうか。それよりも、育児や教育などにより手厚いサポートをして、全国民が平等に生きていけるような、教育を受けられるような社会づくりの方が大切ではないだろうか。

高校生の私にはまだまだ難しい問題も沢山あり、私一人の力ではどうにもならないことだが、今回の作文を書くことで、社会を見直すことができた。これから、社会にもっと関心を持ち、自分自身はどう考えるかを大切にして生きていきたい。